

長畝ふるさと通信

【2014年2月号】

■ もうすぐ春ですね～



先月号でもお伝えしましたが、今年の佐渡は本当に雪が少なかったです。2月中旬には全国的に記録的な大雪と報じられていましたが、佐渡は全く逆でした。朝には雪化粧された田んぼも日中には溶けてしまいます。除雪車の出動も1回きりでした。

2月末には中国から飛来してくる「PM 2.5」の影響で空も薄曇り。雪が無く春作業は取りかかりやすい状況ですが、何となく違和感を感じています。来月から本格的に田んぼ仕事が始まります。



■ オール有機トキ

組合で年間に使用する稲作の肥料代金は約600万円。20kgの肥料袋で約1,700袋も使います。写真は今年始めて使う「オール有機トキ」という佐渡の栽培条件に合わせて開発された100%有機質の肥料です。多少お値段は張りますが、環境保全型農業を続けるためには、こうした化学肥料を使わない資材が必要なのです。資材といえば肥料の他には農薬や種もみ、育苗用の土など合わせると年間の資材費だけでも1500～1600万円にもなります。現状では毎年、お米は過剰生産で米価は下がる一方です。国の補助金収入も大幅に削られ経営は苦しくなるばかり。美味しく安全で安いお米を求める消費者の希望に応えるのは難しいことですが、これからも精一杯努力していきたいと思えます。



■ トキは元気に田んぼで採餌中

写真は2月27日、組合の田んぼで撮影したものです。トキは1月末頃から自ら粉末状の物質を分泌し、これを水浴びの後などに体に擦りつけ、「繁殖羽」の黒色に羽を着色します。見た目はあまりきれいではありませんが、飛び立ったときに見える羽の裏側はきれいな「朱鷺色」をしています。近くにはサギも降り立っていて一緒に餌をついばんでいます。トキたちにとっては雪がないので快適な餌場となっています。



■ 国指定重要無形民族文化財「のろま人形」

のろま人形は享保年間(1716~1735年)の頃、京都より旧新穂村に運び込まれ土着したと伝えられています。佐渡独特の方言で昔から親しまれてきましたが、後継者がおらず、今では滅多に見ることが出来ません。朱鷺と同様、絶滅危惧種となっています。何とか守っていきたいと思いますが、芸の道は険しいもので…

